
未来計画

優香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

未来計画

【Nコード】

N1011Z

【作者名】

優香

【あらすじ】

ナギ誕生日小説。なんかぐだぐだしてます。説明しゅーりょー

「子供は何人欲しい？」

「・・・は？」

朝っぱらから主人に呼び出されたかと思えば、変な質問が飛んできた。

「えーっとお嬢さま？一体何の話を・・・」

「お前の希望を聞いているのだ！とにかく何人欲しいのだ！？バレエボールチームか！？野球チームか！？ま、まさかサッカーチームか！？なんなら全員なでこジャパンでも・・・」

「とりあえず落ち着いてください」

「ふもっ！」

いつも以上に騒がしい口を手で塞ぐ。何が11人なんだ。

十一人もいりません。お嬢さまみたいな子が11人もいれば僕とマリアさんが過労死します。

じたばたと暴れるので手を離せば偉そうにベッドに腰掛け、踏ん返り返る。

「私はいつも落ち着いている！」

「え・・・あ、ああ、そうですね。お嬢さまはいつも落ち着いています」

「・・・そうそう、私はいつも冷静！ってお前今誤魔化したろ！思っていないこと口にして私を落ちつけようとしただろ！」

・・・もう今自分で「落ち着いていない」と認めただけ。

「な、何のことですかー？」

「ええい！もういい！話を戻すぞ！子供は何人欲しいと聞いているのだ！」

「いや・・・急にそんなこと言われましても」

子供って・・・、まだ自分が子供なんだけども。

そういえばお嬢さまが成長したらどうなるんだろう、と少し考えてみたけれど、全く想像がつかないのでとりあえず忘れる。未来よりも今を見ていこう。うん。

「ほら、そんな今すぐとか言ってるわけじゃないんだから、思ったことを言ってみる」

「ええー・・・、うーん・・・そうですねー・・・とりあえずはそんなにたくさんいなくてもいいと思いますよ」

「へ？」

「一人じゃちょっと寂しいと思いますけど、2、3人でいいと思います」

お嬢さまは少し考え込むと、何処からか手帳を取り出し、ペンで何かを書き込み始めた。で、何処から出したんですかそれ。

「2、3人か・・・何かできるのは・・・別にチームじゃなくても卓球とか・・・」

何故さつきからスポーツにこだわっているんですか。

「あのー、お嬢さま？」

「ええい！もうよい！子供は後だ後！結婚してからホイホイと作ってしまえばいい！次に行くぞ！」

「・・・イエツサー」

途中で危険な台詞が聞こえた気がする。お嬢さま、生命っていうのはそういう簡単なものじゃなくてですね・・・。

・・・ん？もし子供が出来たら世話するのってもしかして全部・・・

僕。
・・・ふー・・・。さて、忘れよう。今だけを見るんだよ、

「それじゃ、次はどんな家庭がいい？」

「・・・えーと、家庭といいますと？」

プチッ

あれ、なんだかお嬢さまの方から何か切れるような音が聞こえた気がする？え？気のせい？そうですよねー。

お嬢さまが突然立ち上がる。と思ったら僕に近づいてくる。

怒ってらっしゃるんですか？とても聞こうかと思って口を開いた瞬間、何やら深呼吸をし始める。

精神統一？

2、3度続けたかと思うと、突然、鬼のような形相で僕のことを睨んできた。

「お前はなんでそうやって私の言うことを理解できないのだ！そうか理解しようとしてないのだな！？する気がないのだな！？」
「・・・自己解決してください。さっさとならありがたいです」

殴られました。

「何事も暴力で解決はよくないと思うんですよ」
「ハヤテはこれくらいじゃないとわからないだろうが！」
「なるほど・・・家庭内暴力の危険、ありですね」
「ねーよ」

お嬢さまが僕に殴って殴って殴って、一発蹴ってまた殴ってを繰り返してから数分経って、お嬢さまも大分落ち着きました。15発はやられた。内4発は蹴り。

「で、私にこれだけ体で教えてやってもまだ意味がわからんのか」
「すいません、殴ると蹴るだけではよくわかりません」
「っつ！だからっ！どんな家がいいと聞いているのだ！具体的に言えっ！お風呂かご飯かそれとも私かどれがいい！なんなら全部って選択肢もあるけどなっ！」

顔を真っ赤にして叫んだあと、こちらを睨みながら、呼吸を整える。

「これで・・・わかったか・・・」
「えっと・・・まあ・・・概ねは・・・」

色々つつこみたいところがあるんですけど、とりあえず選択肢全部
ってなんですか、とか、

お風呂の中でご飯を食べるとリバーシしますよ、とか
最後の私っていう選択肢はスルーの方向性で行かせてもらいます、
とか、

お嬢さま前にもその質問聞いたことがある気がします、とか色々。

「具体的にとか言われるとちょっと困るんですけど、やっぱり・・・
普通でいいと思います」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

お嬢さまが僕に背を向けて、すたすたとベッドに近づいていく。
お嬢さまはベッドの前まで来ると、身をベッドへと放った。

6

「・・・・・・・・疲れた、めんどくさい、もうやだ、飽きた」

「・・・・・・・・あ、結局それですか」

ベッドの上でごろごろすること転がって「うがー」と唸るお嬢さま。
どうか僕、仕事戻っていいですか？

「・・・・・・・・なあ、ハヤテ」

部屋を出て行こうとした時、後ろからお嬢さまに呼び止められる。

「は、はい、何でしょうか？」

振り向くとお嬢さまはベッドの上に寝転がって僕に背を向けたまま
で、話を続けた。

「お前の思う普通って、どついつものなのだ？」

「……そうですね……僕も、あんまり普通とは言えない家だったので、よくわかりませんが、普通は人それぞれ違うと思いますよ」

むくりとお嬢さまが起き上がり、顔をこちらに向ける。

「……どついつことだ？」

「自分の家は普通だと思っけていても、周りから見れば変わって見えたり、その逆だったり、色々あると思うんです。だから、お嬢さまが「これは普通だ」って、はつきり思っけることが出来れば、それは普通なんだと思いますよ。」

7

そこまで言っけたところで、お嬢さまが少し微笑む。

「そつか……じゃあ、私にも出来るかな？普通の家族」

「……はい、お嬢さまにならきつと、できますよ」

普通とか普通じゃないとか、そんなことは考えなくていい。

自分がそれを普通だと思えるなら、それは普通のことなのだから。

(後書き)

ちよつと書き方変えてみました。つつこみ多目。のはず。

今日の午前中に上げるつもりが寝坊してこんな時間になっちゃったよー！

なにはともあれ、お誕生日おめでとついでいます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1011z/>

未来計画

2011年12月3日21時56分発行